

特集



平成23年度 JAあきた白神農畜産物生産者大会

農畜産物の生産振興を図り、期待と信頼に応える産地づくり

JAあきた白神（袴田英明組合長）と青果物生産振興連絡協議会（福司金治郎会長）による、平成23年度農畜産物生産者大会が2月21日、能代市のプラザ都で開催され、優良生産者の表彰や販売実績や計画が報告されたほか、農畜産物の生産振興に向けた大会宣言が採択されました。

同大会には、生産者やJA・市場関係者など、約230名が参加。はじめに袴田組合長が、「昨年は東日本大震災で尊い生命や財産等々が失われたほか、福島第一原発事故による放射能汚染問題など、多くの災難に見舞われました。JAでは『相互扶助』の理念のもと、被災地の復興に今後も尽力していくと共に、放射能汚染問題に関しても、管内農畜産物の検査体制を充実させ、風評被害防止に向けて取り組んでいきます。また、政府が協議参加しているTPP交渉については、国内農業の衰退に繋がる危険性を行政と一緒に訴えかけていきます。」と挨拶しました。

続いて福司会長が「ここ数年の異常気象による被害が甚大なものになっていっているので、天候に左右されない生産技術を確立するためにも、今まで培ってきた経験と技術を駆使し、仲間と一致団結して取り組んでいきたい。」と今後の抱負を語りました。